

# 東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	「猫の手も借りたい」から気が付いたこと
別タイトル	Education that I noticed while I have been busy
作成者（著者）	片桐, 由起子
公開者	東邦大学医学会
発行日	2020.12.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 67(4). p.115 115.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	巻頭言
著者版フラグ	publisher
JaLCOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2019 065
メタデータのURL	<a href="https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD08917659">https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD08917659</a>

## 「猫の手も借りたい」から気が付いたこと

片桐由起子

東邦大学医学部産科婦人科学講座教授

「猫の手も借りたい」とは、きわめて忙しいさまの例えで、別の言葉を選択するなら、「多忙」「忙殺」「繁忙」あるいは「多事多端」といったところであろうが、私はそんな場面で「自分のクローンが欲しい」と思ってしまう。遺伝的に同じ性質を持つ生物集団がクローンで、核はその生物のすべての遺伝情報をもつため、核を取り除いた卵細胞に別の固体の細胞から取り出した核を移植すると、核を提供した個体と全く同じ遺伝情報をもつクローンを生じる (<http://www.toho-u.ac.jp/sci/biomol/glossary/bio/clone.html>)。ヒトクローンの作成は倫理的視点から禁じられており、勿論、私がクローンの作成を望むということでは全くない。「猫の手も借りたい」様な場面で、「自分がもう2~3人いたら、仕事をもっと効率的に進めていくことができるのだらうなあ」と想像するということである。

そんな思い描きとともに過ごす日々の中で、最近あることに気が付いた。それは、もし、自分のクローンがいたとしても、それが発揮する能力は自分と同程度であり、手が増える分だけ仕事は片付いていくであろうが、必ずしも発展性があるとは言えないのではないだろうかということである。事物が一つまた一つと片付いていくということは、それだけ何かを作られているということであり、それゆえに物事が発展しているということになるのかもしれない。しかしそれだけでは十分でない気が付いたのである。

「前に進んでいく」ことに関連した言葉に、「踏み台にする」という表現があるが、これは、個人が友人を踏み台にしてのし上がるという使われ方をすることもあるが、本来は自分の目的を達成する足がかりとして、一時的に利用すること全般を表わす言葉であり、今の仕事を踏み台にして、次の大きな仕事への飛躍をはかるという意味で使われる言葉でもある（慣用句の辞典、あすろ出版、2007）。自分のクローンたちがせっせと働けば積み木のように成果は積みあがっていくであろうが、「飛躍をはかる」というイメージにはならない。自分が育てたクローン以上の能力を身に着けた後輩が自分を踏み台にしてこそ「飛躍」が図れるのではないか、... と思うのである。

「飛躍」。この文字をタイプしていて思い出したのが東邦大学の校歌である。

新たなる朝 いま明けて  
希望の天地は わが前にひらけ  
若人われらが 飛躍を待てり

「猫の手も借りたい」。そう思うとき、「自分のクローンが欲しい」と思うのではなく、「自分を超越る後輩を育てよう!」。そう思うのである。

DOI: 10.14994/tohoigaku.2019-065